

「基礎学力をつけるための指導の工夫」

～意欲的に英語学習に取り組む生徒の育成を目指して～

I 具体的な研究内容の考察

英語教育において、英語学習への関心・意欲を高めつつ基礎基本の知識や技術を確実に身につけさせる授業方法や課題提示に関する研究は昨年度まで行ってきた。そこで今年度は、研究テーマは昨年度のものを踏襲しつつ、より充実した英語の授業を創造するために下記の4観点について注目し研究を進めることとした。特に生徒主体の参加型の授業づくりと基礎的・基本的な知識や技術を活用できる場면을授業に取り入れていくことに注目して研究を進めた。

研究を進める上でのポイント

- ①基礎・基本をしっかり定着させる。
- ②参加型の授業づくりを通して積極性と知識を活用する力をはぐくむ。
- ③教科書の内容プラス1の活動を仕組む
- ④4領域をバランス良く指導する

II 研究仮説

4領域のバランスがとれた生徒参加型の授業づくりと、基礎的・基本的な知識や技術を活用する場面を取り入れることによって、生徒の英語学習への意欲・関心が高まり、学力の定着・向上が促進されるであろう。

III 仮説検証の具体的方法

①英語授業において、生徒が意欲的に参加する具体的な形は『コミュニケーション活動』であると捉えていく。私たちは、『コミュニケーション活動』を授業に積極的に取り入れ、生徒が学習活動に巻き込まれるような環境を作り出すことが重要であると考えた。

コミュニケーション活動においては、『生徒の活動』を活性化する必要がある。その点については、『教師の助言・支援』の在り方について注目し研究を深めた。

②次に、活用する力を高める授業づくりについてであるが、4領域の活動を単発的に行うのではなく、例えばリスニングからスピーキングへ、またリーディングからライティングへ等学んだ知識や技術を使わなければならないような場면을積極的に設けることにした。とくに今年度は、リーディングからライティングへ発展できる活動に注目している。

リーディングは基本的に3ステップで行い、post readingのステップにおいてライティングの活動を取り入れることとした。内容としては、読んだことを要約する、読んだ物語を再生する、それについての感想を書く等である。以上の点を考慮しながら、各校で日常の授業実践に励むことを確認した。

IV 授業研究

①塩山北中学校 三枝ゆかり教諭

3年生の授業で、教科書本文の内容を理解した上で、絵を使用しながら物語の再生を英文で行う活動をした。表現能力の向上を中心にグループ活動により学習能力の低い生徒にも適切な援助をしながらコミュニケーションへの関心・意欲・態度の向上も目指した。

②松里中学校 小林裕季教諭

2年生の授業で、既習の構文を理解し、活用力を育むためにグループごとに異なる国をゲストに紹介する活動をした。コミュニケーション活動により4技能を統合的に育成することと発表する技能の向上をねらいとした。

V 研究の成果と今後の課題

今年度は、まず研究の方向性や内容の検討に時間をかけ、授業実践を通じて仮説検証を行う方法をとった。また、理論研究については、山梨県立大学の杉田先生を講師に迎えコミュニケーション活動の効果について講演をしていただき部会員の共通理解を深めることができた。成果としては、『参加型の授業』を意識すると必然的にコミュニケーション活動を行うことになる。そのことで4領域をバランス良く取り入れた授業が実践されており、子供達のスキルの向上が見て取られる。また、スキルの向上に比例して生徒に自信や意欲もこれまでに増して見られるようになった。限られた時間においてできるだけ多く生徒を英語に触れさせ、活動させることにより、学んだ知識や技術を活用する力の下地も養われると考える。コミュニケーション活動で問題になるのが、伝えたいことが決まらないとかどのような文章をもちいて伝えればよいか決められない生徒がいることがある。しかし、今年度の2つの授業ではその点に関して適切な援助がなされており、意欲的な取り組みが見られた。

課題としては、基礎的・基本的な知識や技能が定着できていない生徒の場合、語彙や文構成能力に問題があるためコミュニケーション活動がうまく行えないという課題があり、補充学習などを実施して基礎学力の向上を行う必要があることである。来年度は、小学校の英語教育も本格実施を意識してより活発に行われることも予想されるため、小中の連携を含めて今年度の研究をさらに深化・発展させた研究を進めていきたい。

(部長 廣瀬芳樹)